

いわた

文化財だより 第92号

磐田市教育委員会文化財課 平成 24 年 11 月 1 日 発行

◎目次◎

- 上坂上古墳群発掘調査報告 …… P1・2
- 文化財課からのお知らせ
「遠江の祭礼と民俗行事展」 …… P2
- ふるさと磐田の指定・登録文化財（15）
「澄水山古墳と磐田農業高校記念館」 …… P3
- 福田町史展ただいま開催中！ …… P4
- コラム 「やんぞうこんぞう」 …… P4

かみさかうえ

上坂上古墳群発掘調査報告

平成 24 年 7 月から 8 月にかけて、高見丘^{たかみがおか}地内にある上坂上古墳群^{かみさかうえ}内の新発見の古墳、上坂上 7 号墳を畑地改良工事に伴い発掘調査しました。その成果について報告します。



★調査地域とその周辺

古墳とその周辺（北から撮影）

上坂上古墳群は、磐田原台地の西縁にあたり、上坂上 7 号墳はその東端にあります。大型ショッピングセンター「ららぽーと磐田」から約 300m 北西側に位置しています。

この古墳群の周辺の様子を見ると、人物埴輪が出土したとされる推定全長 30m の前方後円墳・上坂上 C 古墳などが分布する他、東名高速道路を挟んで南側に広がる広野地区では、青銅鏡 2 面（伝広野出土獣帯鏡^{じゅうたいきょう}、変形方格規矩鏡^{へんかつかくきくきょう}。共に磐田市

指定文化財)が採集されています。こうしたことから、上坂上古墳群一帯では、古墳時代中期後半から後期前半にかけて(約1,500年前)磐田原台地西部を代表するような有力な古墳が築かれたことが分かっています。

造られた当時は、大きな塚が見えていたのですが、長い年月の間に土が流れ塚も見えなくなったのでしょうか。

★7号墳の形

上坂上7号墳は、^{しゅうこう}周溝(古墳の周りの溝)の形から、円墳であること、大きさは直径約17mであることがわかりました。

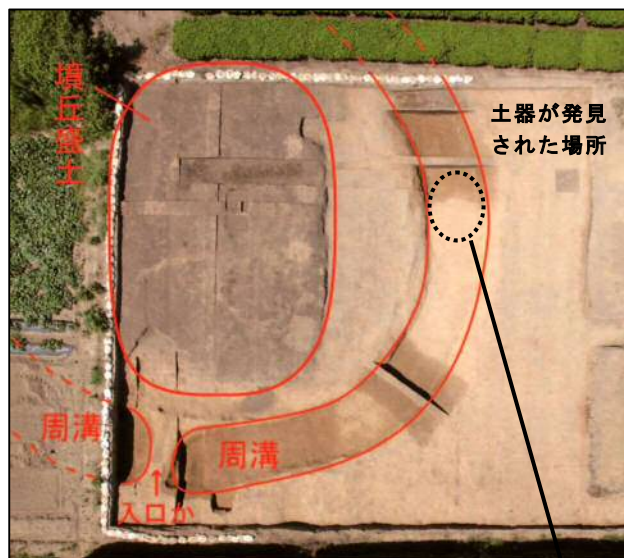
また、黒色の土が分布しているところは、盛土が残っていた範囲です。上部は残っていませんでしたが、茶畑の開墾などで盛土が全て失われていることが多い磐田原台地上の古墳の中では、貴重な検出例となりました。

★古墳への入口か!?

多くの古墳では、周りに溝がめぐっていますが、上坂上7号墳は、周溝が途切れている部分がありました。おそらく古墳内部に出入りするための通路として使われたのではないかと考えられます。

また、周溝からは土器が出土しました。見つかった土器の年代から、この古墳は今から約1,500年前に造られたものと推定できます。

真上から撮影した古墳(上が北)



土器の出土状況

～文化財課からのお知らせ～

『遠江の祭礼と民俗行事』展

(遠江歴史文化ネットワーク共催)

11月16日(金)から29日(木)まで、磐田市役所本庁舎1階展示ブースで静岡県の大井川以西(昔「遠江」と呼ばれていた地域)の市町の文化財担当課によるネットワークとの共催で、これらの地域の祭礼や民俗行事について展示をします。市役所開庁時間内(平日8:30~17:15)にどなたでもご覧いただけます。市役所に御用の際、^{のそ}ちょっと覗いてみてください。



八王子神社米とぎまつり(磐田市)

ふるさと磐田の指定・登録文化財（15）

ちょうすいざん 澄水山古墳と静岡県立磐田農業高等学校記念館

今回は、磐田農業高校の敷地内にある澄水山古墳と同校の記念館を紹介します。

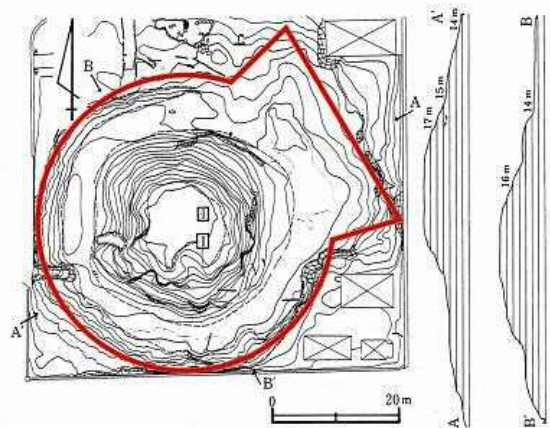
<澄水山古墳>

旧磐田市記念物(史跡) 昭和 45(1970)年 11 月 3 日指定
新磐田市記念物(史跡) 平成 17(2005)年 11 月 21 日指定

農業高校の正門近くにある、市内ではたいへん珍しい帆立貝の形の前方後円墳です。直径約 45m の後円部の東側に長さ約 10m、幅約 36m の前方部が付きまゝ。後円部は上下二段に造られ、高さは約 5m あります。墳丘のところどころに拳大の石が見られることから、葺石と呼ばれる石が、墳丘の土の崩落防止と装飾のために古墳の表面に葺かれていたと思われます。戦時中、後円部に防空壕が掘られ、この際に円筒埴輪や大刀などの鉄製品が出土したと伝えられています。埴輪や古墳の形状から、約 1,600 年前の 5 世紀前半に造られた有力者の墓と考えられます。



澄水山古墳



澄水山古墳の測量図（磐田市史・史料編）

<静岡県立磐田農業高等学校記念館>

国登録有形文化財 平成 13(2001)年 10 月 12 日登録

記念館は、県立農学校が創立 10 周年を契機として見付から中泉に移転する際に、講堂として明治 42（1909）年に建築されました。

木造平屋建てで、間口 12m、奥行き 17.5m あります。屋根は寄せ棟造りの瓦葺き、外壁には雨が入らないように下見板と呼ばれる横板が張られ、上げ下げ窓がつくという、和洋折衷の建物です。内部は天井が高く、稲穂のレリーフがついています。



磐田農業高等学校記念館

昭和 51（1976）年に記念館として整備され、内部には同校の歴史を物語る文書や品物などの資料が保管されています。

明治後期の公立学校建築のようすがわかる建物として、市内で第 1 号の登録文化財となりました。

※磐田農業高校では、11/10（土）に澄水祭（文化祭）を開催する予定です。9:00～14:30 まで記念館を一般公開します。澄水山古墳も併せてご覧いただけます。
※磐田農業高校へは、JR 東海道線磐田駅北口から徒歩 8 分（700m）です。

福田町史展ただいま開催中!

歴史文書館では、福田町史の編さんのため寄せられた数々の資料の中から、資料調査のすんだものを中心に展示しています。



元島遺跡からわかった中世の福田の様子や、江戸時代の古文書等の多くの資料、みなさんの戦時体験や若き日の就労の思い出など貴重な体験を、懐かしい写真とともにご紹介しています。

福田町史は、来年平成25年度に資料編VIの発行を予定しています。資料調査は平成27年の通史編発行まで続けていきます。また、新たな事実が掘り起こされるかもしれません。

全6テーマで
展示しています

- ① 福田のあけぼの 遠江の源流・元島遺跡
- ② 福田の村と湊と人々 検地・領主・年貢・湊
- ③ 祈りと宗教 社寺・修験・講
- ④ 近代産業の発展 漁業・養蠶・織物
- ⑤ 戦争の爪あと 空襲被害・満蒙開拓
- ⑥ 戦前・戦後の暮らし 町の情景・人々の営み

平成24年10月12日(金)～12月2日(日)

午前9時～午後5時(月曜日・第2日曜日は休館) 福田公民館展示ホール

主催: 磐田市歴史文書館(磐田市岡 729-1 電話 66-9112)



「やんぞうこんぞう」

飯田 訓子

私の住んでいる岩田地区では「ホソバ(イヌマキ)の生垣」のあるお宅がたくさんあります。天竜川に面した西側の地域では古来より「遠州のからっ風」として知られる強い偏西風を防ぐため、防風林としてホソバ(イヌマキ)の生垣が多く見られます。

私が子供のころ、そのホソバに出来た実を「やんぞうこんぞう」と呼んでよく食べました。緑と赤い実がくっついていて、赤い実の方だけ食べると甘酸っぱい味がします。今食べてみると美味しいとは言えるかどうか・・・子供のころはそれも楽しい遊びのひとつだったのですね。

「やんぞうこんぞう」とは、遠州の方言で、「弥蔵小僧」とも言うそうで、一説には弥蔵が小僧を背負っているように見えることから、この言い方になったそうです。そもそも弥蔵って誰だろう? 弥蔵が赤い実で、小僧が緑の実? と新たなナゾも浮かびながら、あの頃の私と同じ歳になった我が子と、今日もホソバの周りを散策しています。



ホソバの実

編集後記: 11月は紅葉の季節。朝夕だんだんと冷え込むようになると、からだは大変ですが、野山の紅葉は一層美しさを増します。みなさんのご近所の鎮守の森にも美しい紅葉の季節が訪れていることでしょう。

発行: 磐田市教育委員会文化財課
(磐田市埋蔵文化財センター)
住所: 〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話: 0538(32)9699
FAX: 0538(32)9764
Mail: bunkazai@city.iwata.lg.jp